

平成24年度原子力災害影響調査等事業(放射線の健康影響に係る研究調査事業)
放射線による健康不安対策の推進に関する研究

地域特性を生かした リスクコミュニケーターによる 放射線健康不安対策の推進

主任研究者 大野和子 (京都医療科学大学)

研究概要

リスクコミュニケーター養成

- 宗教関係者、伝統芸術関係者等をリスクコミュニケーターとして養成

外国人の意識調査と啓発

- 原発事故に対する受け止め方を知る
- 放射線事故や放射線影響に関する啓発

リスクコミュニケーター

- 専門家と市民の間に入る
- 正確な情報伝達だけでなく、市民の声を拾い上げて専門家へフィードバックする

グループワーク

- 講義、勉強会の後参加者が少人数で意見交換
- 理解度の認知、疑問や不安へのきめ細やかな対応

グループワーク例



平成24年度現在までの取り組み

- 京都仏教協会、神社庁事務局との打ち合わせ
- 生け花宗家、茶道宗家事務局との打ち合わせ
- 外国人留学生へのアンケート実施
- 行政、学会の発表したQAの収集とまとめ
- 研究参加者間の意識統一

京都仏教協会

1月末発行の会報誌(3,000部)に
啓発文章「放射線について考えてみましょう」
を挟み込み資料として発送

総本山(聖護院)の
来年度勉強会のテーマ
として採用予定
本願寺の全住職を
対象とした勉強会
(2月5日開催)

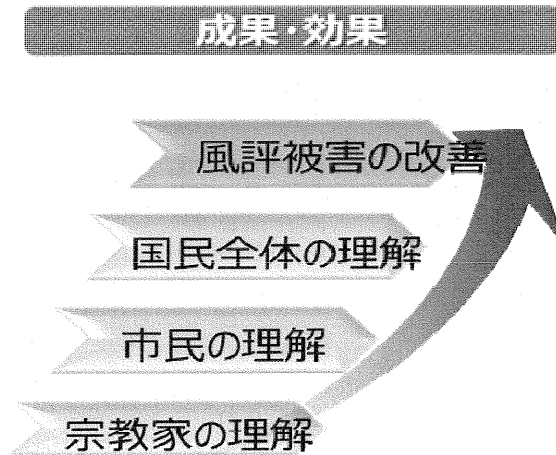
成果・効果

風評被害の改善

国民全体の理解

市民の理解

宗教家の理解



生け花宗家、茶道宗家

小原流(神戸)

指導者を対象とした勉強会を名古屋で開催
(3月)

裏千家

事務局で検討中

希望者のみを対象とした勉強会を

京都府食の安心・安全推進課と検討中



外国人留学生へのアンケート

2012年12月

山口大学留学生を対象アンケート

今後の予定

京都の主要仏閣でのアンケート調査

(仏教協会事務局承認済み)



QA集のまとめ

Item	Number of questions
health effect (health effect of fetus and children)	281 (51)
food stuff and tap water	120
Information requirement in conjunction with radiation	94
total	452

研究参加者間の意識統一

説明用語への注意

被ばく——放射線を浴びる、当る
できるだけ少ない被ばく——ゼロと感じる

仏教協会

原発反対集団である
政府・行政への信頼が薄い
本研究の課題名のみで対応する

平成25年度の展開

リスクコミュニケーター講座の複数開催
グループワークの実施
小冊子の完成
外国人アンケート(多言語)の実施

最終的成果



日本国から

低線量の放射線影響の正しい理解の拡大
諸外国でも広く利用可能な指針の提案
世界に向けた漫画を多用した資料の発信